

# 常磐高等学校 平成30年度 学校重点目標並びに自己評価表

( 計画段階 ・ 実施段階 )

学 校 運 営 計 画				評価(3月)			
学校運営方針	知育、徳育、体育の三位一体を基盤として、至誠の心を育み、自由清新な気風で、心豊かな行動力のある社会有為の人材を養成する。						
昨年度の成果と課題	本 年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標		B			
国公立大学等の進学実績や部活動、生徒会活動の実績で成果が見られた。学校全体で取り組んでいる「朝読書」「全員清掃」が不徹底であり、授業満足度指数も低下し、生徒問題行動件数も増加した。特に携帯電話等のSNSへの不適切投稿が著しかった。規範意識や校外でのマナー遵守指導が急務である。生徒が授業に集中できる環境整備と授業改善を推進する。また、教職員の率先垂範による挨拶、時間厳守、清掃、整理整頓の徹底を図る。	基本的生活習慣を確立し、困難に立ち向かうことができる心身を育成する。	「時を守り、場を淨め、礼を正す」の精神を徹底する。 教育活動全般を通して耐性・自主性・課題解決能力を育成する。					
	自他を尊重し、ルールやマナーを守り、いじめの未然防止を図る。	規範意識を高めると共に相手の立場に立った言動ができる生徒を育成する。 生徒問題行動の未然防止に努め、問題発生時の迅速な初期対応を徹底する。					
	基礎学力の充実を図ると共に高い学力を育成し、進路実績を向上させる。	家庭学習を定着させ、「予習、授業、復習(課題)」の学習サイクルを確立させる。 「大学入学共通テスト」を視野に各教科で組織的に学力向上の授業改善を推進する。					
	自他の安全を確保する指導を充実し、心身ともに健全な生徒を育てる。	全ての教育活動で人権・道徳教育を推進し、地域に信頼される学校を目指す。 ホームルーム活動や部活動を中心に健康管理や安全に関する指導を徹底する。					
	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策		評価(3月)		次年度の主な課題	
学習指導	教科指導力の向上	・生徒による「授業評価」(マーク形式の全科目授業アンケート)の結果を分析し、より良い授業を実践する。 ・定期的な生活アンケート結果により、さらに授業改善を図り、生徒の「授業満足度」95%以上を目指す。		B	C	C	生徒による「授業評価」の取り組みはできたが顕著な授業改善につながらなかった。「授業満足度」は76.7%であった。次年度は「授業評価」を活用して、生徒が主体的に参加する授業改善の取り組みを推進する。
	学習意欲の向上	・出席率の向上が学習意欲の向上に繋がることを認識させ、各学年「月間出席率」99%以上を目指す。 ・生活アンケートにおいて「家庭学習時間 1時間未満」生徒を減少させ、学習習慣の改善を図る。		B	C		
生徒指導	規範意識の向上	・「生徒心得」や「生徒指導内規」を周知徹底することで、生徒・保護者・教職員の共通認識を深める。 ・学校全体で取り組んでいる「朝読書」や「全員清掃」の意義を理解させ、未実施者0名を目指す。		A	B	B	問題行動の特別指導件数で増加した。遵法精神やマナー向上の指導を徹底する。部活入部率は56.5%であった。学園祭や体育大会等で生徒会執行部を中心とした運営がみられた。各種委員会活動の活性化を図る。
	生徒会活動の活性化	・部活動の「加入率70%」以上を目指し、個人の力の伸長と共に集団の成長を図る。 ・生徒会執行部だけでなく、各種「委員会活動」の活性化を図り、学校行事をより充実させる。		B	B		
進路指導	進路学習の充実	・個別指導を徹底し、英語検定、漢字検定、数学検定でそれぞれ「2級合格者数」10名以上を目指す。 ・授業改善を図り、情報処理検定で「協会会長賞」受賞数で全国1位を目指す。		B	B	B	AO・推薦入試で組織的な取り組みの成果が出た。センター・二次私大入試の取組を充実させて目標達成を図る。漢検2級2名、数検2級4名、情検5種目1級34名であった。個別指導等の取り組みを発展継続させる。
	希望進路の実現	・「高大接続改革対策委員会」で最新の情報を収集し、教職員で情報を共有し、授業改善を推進する。 ・模擬試験の「結果分析会」を実施すると共に、組織的な「小論文指導」を充実させて、国公立大学30名以上合格させる。		A	B		
その他	道徳教育・人権教育の充実	・「人権・同和教育特設授業」の内容を見直し、いじめや差別の未然防止を徹底する。 ・生活アンケートや教育相談の内容を「サポート委員会」に反映させ、いじめ認知や進路変更件数を減少させる。		A	A	B	スクールカウンセラーのいじめ防止講話やいじめアンケート、サポート委員会の参加で人権教育が活性化された。進路変更数は横ばいであった。地域からの信頼を高めると共に魅力的な広報活動を実践する。
	広報活動の充実	・年度当初より中学校や私塾との連携を強化し、「オープンスクール参加者」900名を目指す。 ・進学実績を向上させるとともに部活動を活性化させて、「推薦入試受験生」100名を目指す。		B	B		